

# 教育と共育



岡崎商工会議所会頭

古澤 武雄 氏

教育随想



平成23年9月1日

## 9月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

教育随想 .....	1
岡崎商工会議所会頭 古澤 武雄氏	
この人に聞く .....	2
岡崎市ボランティア連絡協議会 元副会長 小林 健悟氏	
羅 針 盤 .....	2
社会科指導員 中西 勉	
ふれあい .....	3
六ツ美西部小 鈴木 善博	
特 集 .....	4
地域との交流を深める自然科学機構 ～岡崎3研究所の取組～	
お知らせ .....	6
フォト・ヒストリー .....	8
学校で行われた植樹祭	
この本を .....	8

昭和四十二年、日本の経済はすでに高度成長期に入り、今振り返るとすばらしいときに社会人第一歩を踏み出しました。

大先輩の経済人の方から教えていただいた「企業は人なり」「職業とは奉仕なり」の言葉は社会人第一歩の私にとりまして、大変強烈な内容でありました。

すぐさま、新入社員の採用を学卒に切り替え、私自身が新入社員教育を行いました。会社全体で新卒・学卒の受け入れ体制（すなわち環境）が整わず定着率が大変低く、困難の連続でありました。

しかし、会社の受け入れ体制も少しずつ変化し、大変優秀な社員が定着し始め、顧客からの要望に対しても十分対応でき、期待されるようになってきました。

そして、昭和五十八年、私が社長になったときは、非常に厳しい経営環境でありました。企業の利益の源泉は何かを考えると、外部要因の割

合は四十六%で、内部要因の割合が五十四%であるとのこと。よって、どんな厳しい経営環境であろうとも内部要因を強くしておけば、環境が良くなったときには、さらに貢献するとの考えのもと、「ビジョン経営」と「人材育成」を最重要課題として取り組んでまいりました。

新入社員が「新入社員共育」のとき、私に質問してきました。「社長にとって社員とは何ですか?」と。私はすぐさま「社長の夢をかなえてくれる人」と答えたことを思い出します。

私自身、知識を知恵に、知恵を行動にと、「ビジョン」と「実行」のパランスを、常にとることを考えております。

今、私には四人の孫がいます。家庭教育という視点で親たちの教育観をみるに、子供たちに対して、もともととって考えて行動してもらいたいと願っております。

私自ら勉強するとともに社員も勉強することが大切です。社長になったときから「社員の成長なくして、会社の成長はない」との考え方をもっており、私どもでは「教育」を「共育」と書き、社員も幹部も社長も共に育つと考えております。

よって、このような「ビジョン」のもとに、社員を始め、社長も共に「行動」し、成果を出してゆくことを展開しております。

数年前、大学で博士課程を修めた



(ふるざわ たけお)



## 仲間、社会との関わりを

岡崎市ボランティア連絡協議会  
元副会長

小林 健悟 氏

「『シニアボランティアの会』を平成七年に結成したんです。男ばかりで作ろうやないかと、二十一名集まったのです。ボランティアの会っていうと七割がた女性なのですが、男だけの会は初めてで、ユニークな会と言われ注目されてね。」

岡崎市シニアボランティアの会は、老人ホームや特別養護老人ホーム、福祉施設、病院などでの送迎ボランティアや車椅子の点検、整備、修理、エアコンフィルターの清掃活動、車椅子で外出する人の介助など

を行っている。

「二十代のとき、会社の労働組合の活動で児童養護施設を訪れたことがきっかけでした。社会的、身体的に恵まれない人に対して、どう接していくべきか。その人たちとの関わりから何か喜びを得たい。そう思って始めたんやけど、仕事を引退した後にも自分の打ち込みたいこととして存在して、会の結成へとつながったんです。」

現在、シニアボランティアの会員は、二十三名。現役で働いている人は数名で、あとはリタイヤした人である。立場はみな異なっているけど、ボランティアという同じ話題で話ができるのが楽しいと言う。

「介助しているとき、車椅子に乗っている人は、いろいろ話し始めます。苦労話が多いですね。自分と年齢が近いから、大体昔の話なんです。話をじっくり聞くと喜ばれるのです。当時のことを思い出し、聞いてくれる相手があったと言ってます。」

おもむろに数冊の大学ノートを取



り出した。そこには、退職後に始めたという短歌が丁寧な文字で整然とつづられていた。五百首余りあるという。中から二首を紹介してくれた。

「車椅子に／乗りて訥訥／話す人／聞くボランティア／われも哀しき」  
『ふるさと』の／メロディー施設に／流れきて／何かやわらぐ／ボランティアの午後」

介助しながら、話に耳を傾け、心交わす時間の流れが、短歌から垣間見える。短歌という表現方法で、またボランティアという手段で、自分の思いや生きる姿を、小林さんは表現する。

「日本人のボランティアに対する意識は阪神淡路大震災で目覚めました。それまではボランティアは、暇人か金持ちがやるもんやという考えでした。欧米では一般的でしたが、若い人が休暇をとって、行うようになったのは、ボランティア活動が日本でも定着してきたということでしょう。仲間や社会と関わり合いながら、自分の楽しみとして、長く続けてほしいと思います。それがボランティアのあるべき姿ではないかと思

います。」

仲間とともに活動を続ける小林さんは、本当に生き生きとしていた。

氏名 小 ばやし けんご  
生年月日 昭和九年十月二十五日  
住 所 岡崎市美合町



## 本物に触れて学ぶ

社会科指導員

中西 勉

「何が入っているでしょう。」

A先生の一言で、子供の目は一つの箱に釘付けになった。子供が箱の中の物を手で触って予想する。「重くて変な形をしているよ」「持つところがあるみたい」試行錯誤しながらそれが昔のアイロンだと予想した子供に、A先生はおもむろにアイロンを箱から取り出して見せた。子供は一目を輝かせ、使ってみたくて意気込んだ。見事な物との出合わせ方で、授業の成功はほぼ約束された。

教室や廊下に所狭しと並べられた昔の道具。子供はお釜でごはんを炊き、洗濯板で洗濯をして、本物に触れて昔の人の苦労を実感してきた。

「聞いたことは忘れる。見たことは覚えて覚えている。体験したことは理解している」と言われるように、体験活動は子供の追究意欲を高め、学びの質



## 子供たちとともに

六ツ美西部小 鈴木 善博

運動会で女子に三十四人タワーをつくらせるのは難しいかもしれない。でも、この子たちならできる、そう信じて挑戦させることにした。

案の定、練習は一筋縄ではいかなかった。何度挑戦しても、立ち上がるタイミングが合わなかったり、痛みに耐えきれなかったりして、なかなか完成させることができなかった。何事にも全力で取り組めるA子までもが弱気になっていた。

「自分を信じ、仲間を信じよう。そうすれば必ずできる」と励ましながら練習をくり返した。来る日も来る日も励まし続けた。このまま完成できなければ、できる技に変更しなければならぬぎりぎりのとき、いよいよ最後の挑戦が始まった。

「これが最後だよ。」

一段目の十二人、二段目の十二人、三段目の六人、四段目の三人、いち

ばん上の一人、全員の顔がそれまで以上に気合いの入った表情になった。絶対に成功させるんだという強い気持ちが伝わってきた。三段目の六人が立とうとしたときだった。A子が動かない。このままでは三十四人タワーへの挑戦が終わってしまう。

そのとき、「A子！」と、A子と同じ三段目のB子が歯を食いしばりながら叫んだ。その声をきっかけに、回りの子が次々にA子を励ますように名前を叫んだ。するとどうだろう。A子が動いた。残っている力をすべて出し切り立ち上がったのだ。震える足を踏ん張り、息を止めて、三十四人の心が一つになった。三十四人のタワーが完成した。

喜びで笑顔になっているB子、感動で涙を流しているA子。そこには大きな壁を乗り越え、成長した子供たちの姿があった。

「私は、三十四人タワーをやっているとき、苦しむつらいです。もうだめだと思ったり、友達が声をかけてくれました。すると力がわいて立ち上がれました。」

A子は、仲間を支えられたり、励



まされたりしながら成長することができたのである。

本番では、練習してきた成果を出し切り、すばらしい演技を見せることができた。演技が終わると、大きな拍手が鳴り響き、目に涙を浮かべる保護者の方もいた。

「今年の運動会の目標は団結力でした。はじめはばらばらだったみんなの気持ちが、練習しながら一つになつていくのを感じ、そして、本番で成功したとき、目標が達成できたと思えました。これからもみんなで精一杯、心一つにして取り組んでいきたいです。」

高く掲げた目標を乗り越え、子供たちが成長する姿に、心が熱くなったり、喜びを感じたりできることに、心からの幸せを感じている。卒業に向けて、百四十三人の子供たちとともに全力で駆け抜けていきたい。

を深める。「炭は満タンに入れるの?」「そうだよ。二十五秒待つてからアイロンをかけてね」和やかな対話を通してA先生と子供が一体となって授業を創っていく。「炭が入っていて重いなあ」「あ、しわが消えたよ」と、教室のあちこちから歓声にも似た多くのつぶやきが聞こえた。

体験で気付いたことを基に意見交換をした。しかし、炭火アイロンのよさに関する意見はなかなか出てこない。「炭火アイロンにはいいところはないの?」このA先生の問いかけに子供は困った顔をした。そのとき、Bさんがゲストティーチャーとして登場。「炭火アイロンもなかった時代は、ふとんの下にズボンを敷いて、寝押しをしてしわを伸ばしたんだよ」Bさんのこの話に、子供は「ええっ!」と声を挙げた。

授業の最後に、C児が「今の人には炭火アイロンは便利じゃないけど、昔の人にはとても便利だったと思う」、D児が「今のアイロンは、昔の炭火アイロンをどんどんよくしてきたものなんだね」と語った。先人の思いや工夫に迫ったこれらの言葉は、体験活動を重ねたからこそ生まれてきた。新学習指導要領で体験活動が重視される理由はここにある。



# 地域との交流を深める 自然科学機構 ～岡崎3研究所の取組～

▲顕微鏡でメダカやカエルの卵を観察する参加者 基礎生物学研究所が開催した「夏休み特別企画」より

岡崎市には、自然科学研究機構の三つの研究所が存在する。昭和五十年に設立された「分子科学研究所」、昭和五十二年に設立された「生理学研究所」及び「基礎生物学研究所」である。

研究所が携わる事業には、市民や小中学校の児童・生徒に向けて研究の内容を発信するものも多くある。研究内容を紹介する一般公開は、各研究所が持ち回りで年に一回実施している。今年度は十一月五日に生理学研究所の公開が予定されている。また、生理学研究所と保健所が共催する市民講座は五月に実施され、脳の働きや脳回路の仕組みについて紹介された。

児童・生徒に関わるものとして、「未来の科学者賞」や出前授業がある。理科作品展の応募作品から選ばれる「未来の科学者賞」は今年で四回目となり、オリジナルティあふれる作品が選出されている。研究者の専門分野を分かりやすく伝える出前授業は、生徒にとって貴重な経験となっている。今年度は、市内全中学校での実施が予定されている。

最先端の研究を紹介する国研セミナーは昭和六十年に始まり、理科部の教員が参加して見識を深めている。現在は年に三回のペースで行われており、総回数も百回を超えるまでに至る。また、市民大学や四季の会などで研究者が講演を行うなど、研究の成果が様々な機会で紹介されている。

世界最先端の研究が、まさに岡崎で行われ、世界へ発信されている。市内の子供や教員がこうした研究に触れることは貴重な体験である。岡崎から、未来の科学者が育っていくのを期待したい。

## 教師との交流

### ●国研セミナー●

国研セミナーに参加して  
昭和60年から始まった国研セミナーも昨年で第100回を迎えた。私たちにとっては、世界最先端の研究に携わる研究者の方から直接お話を聞ける貴重な機会である。今後も岡崎の子供たちに科学の魅力を伝えるために、先生方の積極的な参加を期待したい。  
(理科指導員 山本則夫)



▲研究の成果を発表する研究者  
演題『環境に応じて機能を変える脳のしくみ』第103回国研セミナー

### 自然科学研究機構組織

分子化学研究所 (岡崎市)

生理学研究所 (岡崎市)

基礎生物学研究所 (岡崎市)

国立天文台 (東京都三鷹市)

宇宙の様々な現象の観測と理論研究を深める

核融合科学研究所 (岐阜県土岐市)

核融合による新しいエネルギーの開発研究を行う

# 研究所紹介

## 生理学研究所



▲合成実験の様子

### <脳と体の仕組みを探る>

人体の生命活動に脳や人体の働きがどのように関係しているかを解明している。また、大学と共同で研究し、研究者の育成にも力を入れている。

研究を通して、人々が健康に生活するための方法と、病気の発症メカニズムの解明を目指している。

### <分子の仕組みを探る>

物質から生命にいたる幅広い分野の基礎である分子科学の研究を通じ、様々な領域に共有する知識を提供している。

研究の成果は、新物質のエネルギー有効活用に生かされている。

## 分子科学研究所



▲分子科学研究所の外観

## 基礎生物学研究所

### <生物の生きる仕組みを探る>

生命の営みの基本をなす遺伝子の働きや細胞の働きを探るとともに、生物が環境に適応し、多様な形と能力を持つに至った仕組みを研究している。

また、全国の研究者に研究の場を提供している。



▲実験材料となる多様な生物モデル

# 子供との交流

## ●未来の科学者賞●



▲審査をする研究者のみなさん

## ●出前授業●



▲DNAの抽出実験  
「アサガオから分かる遺伝子の働き」  
(竜海中)

### 出前授業の感想

DNAという言葉をよく耳にするけれど、今回の説明を聞くとすごく複雑なものだと思いました。小麦のDNAを伸ばすと何十メートルもの線になるということにとっても驚きました。

アサガオの種類がたくさんあることや、閉じているときは赤色だけど、開くと青になることも初めて知りました。実際にDNAを見ることができ、貴重な体験となりました。

(竜海中生徒)

## 分子科学研究所展示室

研究所で行われている取組を、楽しみながら学習できる展示施設です。

- ・見学日…月～金
- 10:00～16:00
- ・見学所用時間…15分～1時間
- ・申し込み、問い合わせ先
- メール：kengaku@ims.ac.jp
- TEL：0564-55-7262

見学は無料です。見学を希望される場合、1週間前までに申し込みをしてください。

※生理学研究所広報展示室は、耐震工事のため公開されていません。

# 市民との交流

## ●一般公開●



▲立体映像を視聴する参加者  
※昨年度は基礎生物学研究所が一般公開を開催

## ●市民講座●



▲視覚と脳の動きの実験



●教育最新情報

○授業力・教師力アップセミナー【基礎編】

◆学校保健(三日) 岡崎市勤労文化センター)

名古屋学芸大学の林典子先生を講師に「PDCAサイクルで進める学校保健活動」について研修した。子供の実態を正しく捉えて計画、実践、評価、改善するプロセスの重要性を学習した。保健だより作成の計画をつくり、目標をもって執務にあたる価値を再認識することができた。

子供の健康を守るために、教職員や保護者との連携を意識した執務を進めていきたい。◆英語(四日) 六ツ美市民センター)

小学校の英語活動と小中の連携を踏まえた、中学校の授業づくりについて研修した。

午前は、実際の英語活動を学習者の立場で体感し、歌やリズム、場面絵の必要性を実感した。午後は、それらを生かした中学校の授業についてグループ討議した。

小学校で培われた素地を、中学校で引き継ぎ、自信をもって自己表現できる子供たちを育てていきたい。

◆保健体育(三日) 矢作北小学校体育館)

跳び箱・マット運動の授業の進め方と補助の方法について研修した。実際に、六年生の一学級を対象に、河合中学校伊藤真平教諭が授業形式で進めた。子供の反応を直接感じながら、実態に即したスモールステップや場の工夫・様々な練習方法を学んだ。子供が、「この練習なら、できそうだ」と、夢中になって練習し、動きを身に付けていく姿を求め

ていきたい。

◆社会(四日) 東公園・根石小学校)

岡崎の心の醸成に関わる史跡の見学と実践紹介、民俗文化財の教材化について研修を行った。昨年の徳川家康と石田茂作に続いて、今年は志賀重昂と本多光太郎に焦点を当てた研修だった。偉人ゆかりの碑や建物を自らの目で確かめたことで、岡崎の心の醸成に関わる実践への意欲がさらに高まった。

◆学習情報(三日) 六名小学校)

パソコン室の活用、情報セキュリティの重要性、教材作成の方法について研修した。パソコン室で授業をスムーズに行うためのヒントや、個人情報漏えいの危険について事例を通して学んだ。その後、各自で準備した素材を利用して、教材作りに取り組んだ。

目の前の子供の実態を踏まえ、意図をもって作成できる自作のメリットを生かし、教材作成に取り組んでいきたい。

●表彰

◆JOCジュニアオリンピック

カップ全国中学生カヌー大会

女子カヤック一人乗り 優勝 新香山中三年 柴田好美  
女子カヤック二人乗り 優勝 新香山中三年 芝下寧々 宮嶋 愛  
女子カヤック四人乗り 優勝 新香山中三年 柴田好美 芝下寧々 宮嶋 愛

カヤック二人乗り 二位 新香山中三年 西村拓哉 名倉光晟  
カヤック二人乗り 二位 新香山中三年 田口幹朗 磯谷勇太

◆第十八回愛知県中学校カヌー大会

男女総合優勝 新香山中  
男子総合優勝 新香山中  
女子総合優勝 新香山中  
カヤック二人乗り 優勝 新香山中三年 西村拓哉 名倉光晟  
カナディアアン一人乗り 優勝 新香山中三年 綿 幹弘  
女子カヤック一人乗り 優勝 新香山中三年 柴田好美  
女子カヤック二人乗り 優勝 新香山中三年 柴田好美

◆第二十八回NHK杯放送コンテスト愛知県大会

朗読部門 最優秀賞 北中三年 齋藤朋香  
優秀賞 北中三年 高原 溪  
ラジオ番組部門 優秀 六ツ美北中文芸部  
優良 六ツ美北中 加藤 遥

◆第十四回愛知県中学選抜混成競技大会

四種競技 優勝 葵中三年 久永健太郎

◆第二十九回愛知県小学生バドミントン大会

女子ダブルス 優勝 交養部、五年 宗政理紗  
矢作東小五年 福嶋沙彩

◆第四十八回「全国中学生海の絵画コンクール」

佳作 矢作中二年 中根凌史

※すべて全国審査へ進出

第64回岡崎市中学校市長杯総合体育大会・岡崎幸田支所予選会

Table with 5 columns: 種目, 性, 優勝, 第2位, 第3位. Lists winners for various sports like 陸上競技, バスケットボール, etc.

第64回岡崎市中学校市長杯総合大会の最終結果

Table with 7 columns: 種目, 1位, 2位, 3位, 4位, 5位, 6位. Shows final rankings for 男子総合, 女子総合, 男女総合.

個人競技 (1位のみ)

Table with 5 columns: 種目, 男子, 学校, 女子, 学校. Lists individual winners for ソフトテニス, 卓球, 剣道.

陸上競技

Large table with 5 columns: 性, 種目, 氏名, 学校, 記録. Lists track and field results for 男子 and 女子 across various distances and events.

水泳競技

Table with 3 columns: 種目, 男子, 女子. Lists swimming results for various strokes and distances.

記録欄の「新」は、新記録の意味。

柔道

Table with 4 columns: 性, 階級・部門, 氏名, 学校. Lists judo results for 男子 and 女子 across different weight classes.

体操

Table with 4 columns: 種目, 個人総合, 女子, 学校. Lists gymnastics results for 個人総合, クラブ, リボン.

記録欄の「新」は、新記録の意味。

平成23年度岡崎市小学校体育大会

Table with 5 columns: 種目, 性, 優勝, 第2位, 第3位. Lists winners for elementary school sports like ソフトボール, バレーボール, etc.

Table with 5 columns: 種目, 性, 優勝, 第2位, 第3位. Lists winners for elementary school water sports like サッカー, 水泳.

水泳競技 (個人・1位のみ)

【南ブロック】三島小プール

Table with 3 columns: 種目, 男子, 女子. Lists swimming results for the South Block at Sanjima Pool.

【北ブロック】井田小プール

Table with 3 columns: 種目, 男子, 女子. Lists swimming results for the North Block at Iida Pool.

記録欄の「新」は、新記録の意味。

・カ  
ツ  
ト  
城  
北  
中  
青  
木  
貴  
之

# 学校で行われた植樹祭 (昭和63年)

写真提供：常磐東小学校

この写真は、昭和六十三年四月、常磐東小学校を会場に県主催の西三河地域植樹祭が開催された様子である。

愛知県植樹祭は、緑化に対する意識の高揚を図り、緑豊かな快適な環境づくりを推進するために、昭和二十三年度から毎年開催されており、本年度で六十三回目を迎える。また、常磐東小学校は、平成二十一年度、全日本学校関係緑化コンクール「特選」を受賞した。これは、児童・生徒が計画的、組織的に環境緑化を推進し、緑化の実績を上げるとともに、樹木等を活用して、児童・生徒の緑化教育の面で顕著な効果をあげた学校を表彰するものである。

市内の各小中学校では、積極的な緑化推進が図られ、全国トップレベルを誇る。

# フォトヒストリー 岡崎の教育



思い出話に花が咲く、新学期、九月の教室。子供たちにとっては、友達との再会がいちばんの喜びのようだ。教師の喜びは、やはり、子供たちの笑顔をたくさん見ること。学校生活のなかでも、夏休みの思い出を上回るような、すてきな思い出を、子供とともに作りたい。

決意を新たに、二学期の始まりである。

しぶきをあげて飛び込んだのは、近年小川に住みついたヌートリアか。色づき始めた稲穂はゆれている。アキアカネが飛び交う稲田のあいだを、右に左に、田んぼの景色を楽しみながら進む鹿乗川。残暑はしばらく続くだろうが、汗ばんだ背中に時折感じる風は、秋の到来を告げている。

# シオ スア

新しい発見を求め、日々研究に取り組み研究員の姿に情熱を感じる。まさに世界最先端の研究が、岡崎から発信されている。

独創的な発想、視点もさることながら、最も学びたいのは前向きな姿勢である。

失敗は成功の元。失敗や挫折から得られた経験や発見こそが、成功の糧となる。

好きなこと、打ち込めること、生涯を通して続けられること。自分にとってみると一体何だろう。仕事を引退してからはなく、現役のときから打ち込みたいことを見つけておくことが大切。小林さんのように打ち込めるものを、今、見つけられるようにしていきたい。

# この本を

- \*先送りできない日本 池上 彰 ¥760  
角川書店
- \*日本人の誇り 藤原 正彦 ¥819  
文藝春秋
- \*原子力神話からの解散 高木仁三郎 ¥800  
講談社
- \*第三の敗戦 堺屋 太一 ¥1,575  
講談社
- \*大局観 羽生 善治 ¥760  
角川書店

「着眼大局」の必要性・重要性は言うまでもないが、それにはレベルの高い直観力・判断力・観察力が要求される。

本書は、筆者が将棋人生の中で身に付けた「大局観」という能力について、その育成の過程を詳しく述べている。著者の類まれな「自己説明能力」に加えて、各種事例を多彩・豊富に繰り出し、将棋に興味のない読者にもよく伝わる工夫がされている。スポーツ・教育・人生の中でも指針となるエッセイである。

北中 稲垣 幸一